

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所長
(公 印 省 略)

令和6年度農作物病害虫発生予察情報について

令和6年度農作物病害虫発生予報第10号を発表したので送付します。

令和6年度農作物病害虫発生予報第10号

令和6年10月2日
徳 島 県

I. 果樹

カンキツ

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く（前年よりやや多い）、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- 9月第6半旬の温州ミカンの巡回調査では、発生圃場率が75.0%と、平年(62.5%)並の発生であるが、寄生葉率は11.0%と、平年(4.6%)に比べてやや高い。
- 高松地方気象台が9月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- 葉裏にも十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

カキ

炭そ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく（前年並）、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- 9月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない（平年同時期は、発生圃場率が16.7%、発病果率が0.4%）。
- 高松地方気象台が9月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- 9月から11月の降雨は果実の被害を助長するため、発病果が認められる場合は、薬剤による追加防除を行う。

フジコナカイガラムシ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく（前年よりやや少ない）、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が16.7%、寄生果率が0.5%と、平年（48.3%、1.9%）に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が9月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 密度の高い園では、2回以上の防除が必要である。

果樹共通

果樹カメムシ類（ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ等）（令和6年8月2日付けで注意報発令中）

1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く（前年よりやや多い）、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 9月第1半旬から第5半旬の予察灯調査において、勝浦町では、ツヤアオカメムシが61頭と、平年(305頭)に比べて少なく、チャバネアオカメムシが515頭と、平年(537頭)並の誘殺数であった。一方、上板町では、ツヤアオカメムシが123頭と、平年(101頭)並の誘殺数であるが、チャバネアオカメムシは335頭と、平年(173頭)の1.9倍誘殺された（表1）。

表1 予察灯への各種カメムシ類の誘殺数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]							[チャバネアオカメムシの誘殺数]								
月	半旬	勝浦町			上板町			月	半旬	勝浦町			上板町		
		2024年	2023年	平年	2024年	2023年	平年			2024年	2023年	平年	2024年	2023年	平年
9	1	7	11	41	8	9	17	9	1	82	72	106	77	87	62
	2	14	21	61	19	15	18		2	114	62	159	100	49	44
	3	29	55	45	7	27	21		3	117	58	84	112	42	33
	4	5	41	48	84	36	16		4	137	52	78	7	41	18
	5	6	16	110	5	53	29		5	65	31	110	39	12	16
	6				6	52	43		6				29	21	10

- (2) 高松地方気象台が9月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。
- (4) 合成ピレスロイド系剤は、殺虫効果と吸汁阻害効果に優れ、残効も長いですが、天敵への影響が強く、ハダニやアブラムシのリサージェンスを引き起こす場合があるので注意する。

II. 野菜

アブラナ科野菜共通

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年より少なく（前年よりやや少ない）、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月第6半旬におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が13.3%、寄生株率が0.3%と、平年（59.8%、9.6%）に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が9月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

コナガ

1) 予報内容

発生量 平年より多く（前年よりやや多い）、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 9月第6半旬におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が46.7%、10株当たり寄生幼虫数及び蛹数が0.5頭と、平年（16.2%、0.1頭）に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が9月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

モンシロチョウ

1) 予報内容

発生量 平年並（前年よりやや少ない）で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月第6半旬におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が6.7%、10株当たり寄生幼虫数が0.0頭と、平年（10.3%、0.0頭）並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が9月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 若齢幼虫時の防除に努める。

秋冬ネギ

黒斑病

1) 予報内容

発生量 平年並（前年並）で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が11.1%、発病度が0.1と、平年（13.3%、0.2）並の発生である。

- (2) 高松地方気象台が9月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、定期的に薬剤を散布して予防する。
(2) 肥切れすると発生が多くなるので、適切な肥培管理に努める。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並（前年並）で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない（平年同時期は、発生圃場率が3.3%、寄生株率が0.0%）。
(2) 高松地方気象台が9月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く（前年並）、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が88.9%と、平年（40.0%）に比べて高く、被害度は1.5と、平年（1.9）並の発生である。
(2) 高松地方気象台が9月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高いが、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく（前年よりやや多い）、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が22.2%と、平年（53.3%）に比べてやや低く、被害度は0.3と、平年（8.2）に比べて低い。
(2) 高松地方気象台が9月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
(2) 被害葉は発生源となるので、圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

冬春イチゴ

炭そ病

1) 予報内容

発生量 平年並（前年並）で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が8.3%、発病株率が0.0%と、平年（7.6%、0.1%）並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が9月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 台風の通過が予想される場合は、予めネットで苗を覆うなど物理的な傷を防ぎ、通過後は必ず薬剤で予防しておく。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく（前年並）、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない（平年同時期は、発生圃場率が14.1%、寄生葉率が1.4%）。
- (2) 高松地方気象台が9月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

野菜共通

ハスモンヨトウ（令和6年9月27日付けで注意報発令中）

1) 予報内容

発生量 平年より多く（前年よりやや多い）、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 9月のフェロモントラップへの誘殺虫数は、9月第4、5半旬の平均誘殺数は377頭、449頭と、平年（230頭、263頭）の約1.6倍、1.7倍となった（図1）。また、誘殺数のピークが平年に比べて約10日早い傾向にある。
- (2) 9月第6半旬におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が93.3%、寄生株率が18.9%と、平年（49.6%、6.2%）に比べて高い。
- (3) 高松地方気象台が9月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫時に防除を行う。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

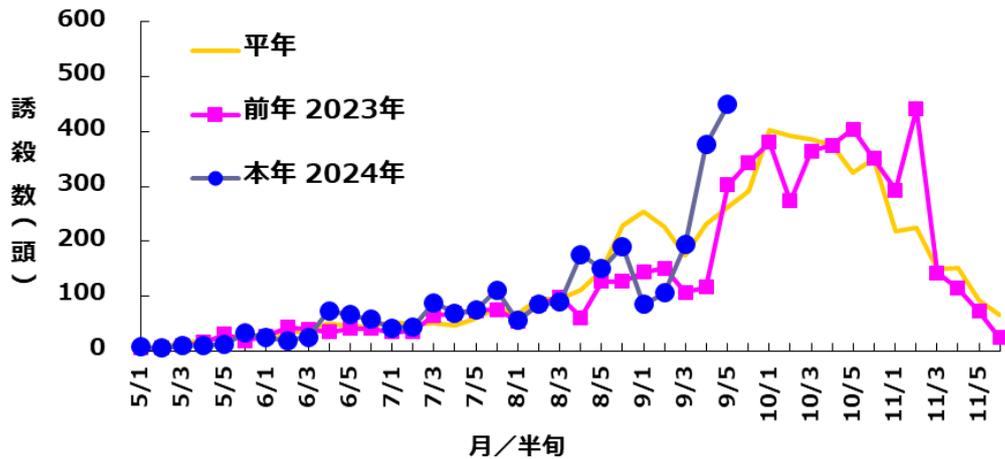


図1 ハスモンヨトウフェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)

*徳島市・石井町・阿波市・吉野川市・東みよし町・三好市の9地点平均

シロイチモジヨトウ (令和6年9月17日付で注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く (前年よりやや多い)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 9月のフェロモントラップへの誘殺虫数は、9月第1半句から第5半句の平均総誘殺数が1,993頭と、平年(1,056頭)の約1.9倍となった(図2)。
- (2) 高松地方気象台が9月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫時に防除を行う。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

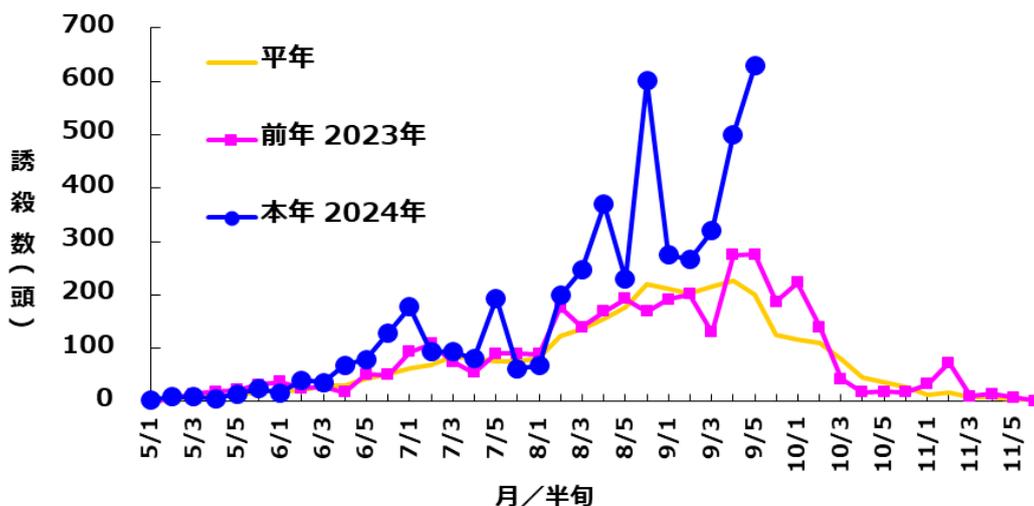


図2 シロイチモジヨトウフェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)

*徳島市・石井町・阿波市・吉野川市の7地点平均

オオタバコガ (令和6年9月17日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く (前年並)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 9月のフェロモントラップへの誘殺虫数は、9月第4、5半旬の誘殺数が平年に比べてやや多い (図3)。
- (2) 発生ピークが平年よりも1半旬程度早いため、次世代幼虫の発生が早くなり、被害の増加が予想される。
- (3) 高松地方気象台が9月26日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫が果実等に食入すると薬剤の効果が著しく低下するので、使用基準に基づき定期的な薬剤防除を行う。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

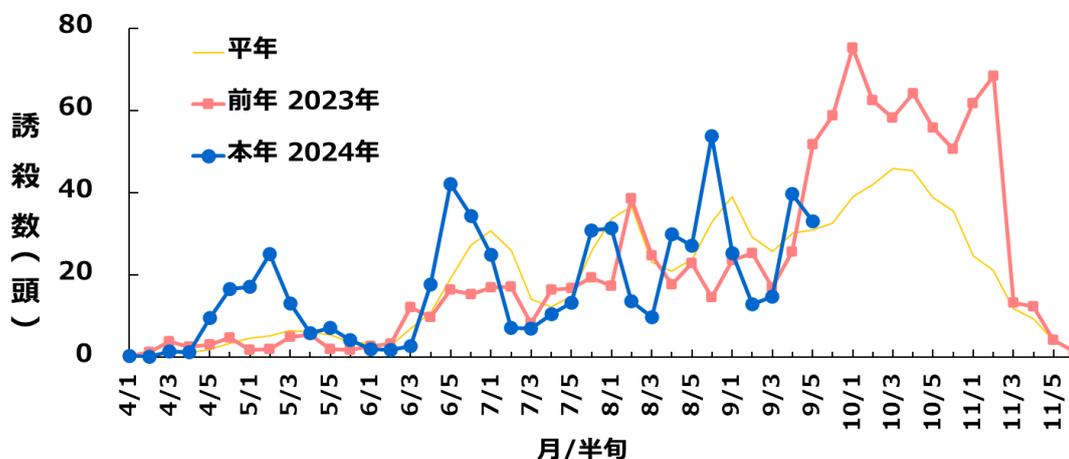


図3 オオタバコガ フェロモントラップ誘殺数推移

*阿波市・三好市・東みよし町・石井町の6地点平均

IV. その他

- 1) ハスモンヨトウをはじめとする食葉性害虫等の発生が多くなる時期である。野菜類の定植後には圃場を見回り、発生を確認したら速やかに防除すること。
- 2) 薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守し、周辺作物へ飛散しないように注意する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所

URL: <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujosh/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。